

## 第10回チーム“SUNAGAWA”団結セミナー&ワークショップ 振り返り

と き : 令和元年 12 月 2 日 ( 月 ) 16:00~18:30      ところ : 地域交流センターゆう

今回で 12 度目の砂川となる ( 一社 ) 地球 MD 代表理事 山本 聖 氏  
セミナー&ワークショップは48名と、今回も多くの方々に出席いただきました。



### 1. トークセッション・セミナー「まちづくりに必要なこと」～本質的な豊かさを考える～

**〔有〕くま 辻 信行さんの紹介**      元小学校教師。地元ケーブルテレビにて12年間倉敷市・総社市・玉野市の約 300 の小学校区約 4,000 ㎡を巡る番組を企画し出演する。番組を通じて出会った宝 ( 地域資源 ) を大切にす豊かな暮らしや、次世代に繋ぐ豊かな心を育てようと、( 有 ) くまを設立。倉敷市美観地区の商家「三宅商店」をリノベーション、現在では全国から年間6万人が来店する。町家や農産物などに磨きをかけるまちづくり、ひとづくりを手掛け、おしゃれなマスキングテープ「mt」を日本で初めて販売し流行らせた張本人。



#### 流行り、廃りではなく「本質」を大切に

- ・歴史ある建造物は地域の宝、今それが取り壊され次世代に繋ぐことができない。
- ・中心市街地を対象地域とした様々な補助金はあるが、それ以外の地域にも同じ様に歴史や文化があり地域が誇る宝がある。
- ・現在3店舗と1工房を運営しているが、どれもきれいにし過ぎず、土壁や古材など積極的に活用し、地域を「知る」「伝える」ための発信拠点としている。各店舗の取組みは、小さな地域経済の循環をつくり、経済的にも次世代のお荷物にならない場づくりをしている。
- ・まちづくり・ひとづくり・ものづくりで大切なのは「本質」。地域にはものづくり、商い等の暮らしがあり、人々の日常 ( 暮らしぶり ) が美しい。何が美しいか、本質を伝えていきたい。
- ・地域も命、自分も命、両方あつてはじめて人生の豊かさがある。

・自分の時代だけまちが良ければそれでいいのではなく、先人を敬って次世代をおせっかいに思いやれるかが今試されているのでは。

・その考えを拡げるためには難しいことを大真面目に言っても伝わらない。わかりやすい共通言語「おいしい」「おもしろい」「かわいい」とするためにカフェは有効。カフェと本質的なことの両輪があって多くの人に伝わる。

### 2002年 日用雑貨・荒物店だった三宅商店を「町家喫茶」に再生

・地域素材を活かした季節のパフェや玄米カレーを提供



1月下旬から2月下旬  
シトラスパフェ



3月上旬から5月上旬  
摘み立て苺パフェ



5月中旬から7月上旬  
新茶のパフェ



7月中旬から8月下旬  
桃のフローズンパフェ



9月上旬から9月下旬  
ぶどうのパフェ



10月上旬から10月下旬  
和栗のパフェ



11月上旬から12月上旬  
りんごのパフェ



12月中旬から1月中旬  
黒豆と黒胡麻のパフェ

### 2010年 酒屋だった古民家を 水辺のカフェ「三宅商店」酒津 に再生

- ・酒津地域は観光地ではないが、精霊流しなど昔ながら生活習慣が残っている地域。
- ・三宅商店同様、地域と季節や風、水や緑をテーマにした地域の商店。
- ・自然の風と川辺の雰囲気を感じてもらいたいのでエアコンは設置していない。夏は、かき氷を食べながら気持ちのいい風を感じてほしい。
- ・メニューは「三宅商店」と同じ季節のパフェと玄米カレーのみ。
- ・季節にとれる果物や野菜をふんだんに使い、提供できるメニューは増やさず無理をしていない。



## 2012年 薬問屋だった林源十郎商店を「衣食住のデザインマーケット」に再生

- ・木造3階建ての本館と母屋、離れ、蔵の四棟と庭を修復・整備した施設には「豊かな暮らし」を探求する「衣・食・住」の8店舗が入居。そのうちの1店舗はデニムスーツの会社。観光地でもないのに売上があり、顧客のほとんどが東京。年に1回東京で受注会をやっている。
  - ・本館2階には「林源十郎商店記念室」があり、1657年からこの地で薬問屋を営み、倉敷の健康・福祉に尽力してきた林家・林源十郎商店のスピリッツに触れることができる。1・2階はカフェと雑貨販売、3階はカフェ、オープンテラスがあり、倉敷美観地区を一望でき、リピーターの聖地になっている。
  - ・倉敷の街の歴史・文化を伝えるため倉敷を回遊できるような面の核としての役割としている。
- ・現在年25～30万人の集客があるが、コアなファン2万人が月1回来てもらおうことを目指している。この店のコンセプトは「暮らしの豊かさとは」、それを考えてもらうきっかけを発信している。**



## 2016年 商家だった旧原田邸を「三宅商店カフェ工房」に再生

- ・500坪と広い敷地で売りに出していた物件。中心市街地ではないので全て借金で購入。
- ・現在は、25件の農家と取引し、ジャムや焼き菓子工房として市内だけでなく都内百貨店・アパレルショップ等にも卸している。
- ・ジャムを作る工房は、春夏秋冬を感じ季節と向き合いながら仕事ができるように設計している。
- ・将来は宿泊施設も併設し、倉敷の自然を楽しみながらモノづくりを体験できる施設としたい。
- ・「蛸を見る会」「流しそうめん」などイベントを実施し、地域住民が集う場所になっている。



## 地域の宝を次世代につなぐためのチャレンジ「地域ホテル」を企画

- 地域の宝である建物を個人・法人の別荘や保養所、そして客間としてみんなでシェアするプロジェクト。
- 例えば、歴史ある建物をリノベーションして、ホテルとして宿泊できる権利を販売、「1年間7日間宿泊×10年間」の権利であれば50万円、「1年間28日間宿泊×10年間」であれば200万など。
- 1人1人が楽しみながら地域経済を回す仕組みにしたい。法人にとっては、社員の福利厚生として街づくりを支援し、取引先が出張に来る際、そこに宿泊してもらえば、地域を「知る」「伝える」体験を提供できる。
- 今後、美観地区の町家・蔵をリノベーションし10年間の宿泊の権利を販売する予定。将来は、「地域ホテル」を全国に広げ、別の地域ホテルで購入した宿泊の権利は、他の地域ホテルでも使えるようにしたい。日本人による日本再発見、ふるさとを「知る」「伝える」きっかけを生み出すことができる。



### 地域や季節と向き合い「ホンモノ」に磨きをかける = 『本質 × Kawaii』

- もともと造り酒屋が米麴だけで作った贅沢な甘酒であったが、樽ごと全量買い取り、甘酒と差別化し“米麴 100%ドリンク”という新しいカテゴリーを作るつもりで『Koji100』と命名し販売。
- 『二層ジャム』上から食べていくと3種類の味を楽しめる。ブライダルギフトとしても使われている。

## 2. 事業所視察訪問 ※講師が事業者を訪問しています。市内事業所のみならず、このプロジェクトに関係する市外事業所も訪問しています。

▼ほんだ菓子司が日本一のアップルパイを目指した道のりで生まれたギリシャヨーグルト専門店F(深川)



▲ ソメスサドル

▲ 神内ファーム(浦臼)